

昔の暮らしを体験してみよう！

西村民俗資料館で「とつげき！甲佐の資料館！」を開催

昔の人は、どんな暮らしをしていたのか、機械化される前は、どんな道具を使っていたのか、どんな知恵と工夫を凝らして生活していたのか。

西村民俗資料館に保管されている昔の道具などを実際に使って、昔の暮らしの体験会が開催されました。

2月21日(日) 仁田子の西村民俗資料館で、「とつげき！甲佐の資料館！むかしのくらしを体験しよう」と題して、同資料館に保管されている道具などを利用しての体験会が開催されました。

昔の人が暮らしの中で、どのような道具を使い、工夫を凝らしていたのかを実際に体験することを通して、人の知恵や技術によって発展してきた歴史と文化を振り返ることを目的に、町教育委員会が主催。

体験会では、同資料館に保管されている道具などの展示や、実際に道具を使って作業を行う体験教室を実施。町文化財保護委員と仁田子老人会の皆さんの協力を得て開催され、地域の子どもたちから高齢者まで約80人が参加しました。

資料館内では、昭和初期の民具や農具など約200点を展示。展示品には、道具名と使用目的・方法を記





入した札を付けて公開し、町文化財保護委員による道具についての詳しい説明が行われました。見学する高齢者からは、昔の生活において必需品だった道具を眺めては懐かしい話が飛び出し、昔話に花が咲きました。また屋外では、実際に道具を使っ

ての体験教室を開催。唐箕（とうみ）などを使った農作業や引き臼による粉引き、むしろ編み、縄ないなどの作業体験や、竹馬遊びやこま回し、竹とんぼ遊びなど昔の遊び体験も行われました。体験教室では、仁田子老人会の皆さんから子どもたちに、機械化される前の昔の農業について説明が行われた後、唐箕を動かしてみたり、縄ないをしたりして昔の生活を体験しました。

▼西村民俗資料館に関するお問い合わせ先
町教育委員会社会教育課
☎096・234・2447



●西村民俗資料館（仁田子）



西村民俗資料館は、1984（昭和59）年10月に西村一生さんから町に寄付された施設で、敷地内には収蔵庫も設置されています。現在までに町教育委員会が収集した200点以上の民俗資料が保管され、農林業や養蚕などの歴史的・文化的な道具が収められています。

資料館は、もともとは西村さんの家屋で、1877（明治10）年の西南戦争時に一度焼かれた後、翌年に建てられました。建築設計は、当時の地主用として建てられたもので、土間を広く作ってあるのが特徴的です。建築にあたっては鉄釘を一切使用せず、くり込み式を用いています。また、家屋裏にある蔵は、天保6（1835）年に建てられたものが、現在まで残っています。

敷地内にある西村展蔵氏の顕彰碑は、同氏が上海大道政府の最高顧問を務めた際の友人や同氏の門下生らにより、1970（昭和45）年に建てられました。碑文は、鈴木貫太郎内閣時の書記官長・迫水久常氏（同氏の門下生の一人）によるものです。